

● 資源管理手法検討部会における関会長の意見表明概要

【島しょ漁業の現状】

- ・ 海洋環境の変化などから、磯物資源が減少し、漁業者はキンメダイ漁業への依存を高めています
- ・ 島周辺の夜間操業の禁止や産卵期の休漁など、自らがルールを作り、資源管理に取り組んでいます
- ・ しかし、内地から来る漁業者等の中には、こうしたルールに理解を示さない者も少なくないことから、キンメダイが小型化するなど、漁業者は将来の漁業に不安を抱いています

【漁獲量の管理について】

- ・ TAC制度の開始に伴って、現状よりも少ない漁獲量が配分割当された場合、収入減少への影響が大きく、生活が苦しくなるため、漁獲量の管理には、強い反対の声があります

【数量管理を導入・実施する上での課題及び方向性】

- ・ 公平な漁獲量の配分割当と資源管理に向けた対応方向について、漁獲量報告は水揚港から漁場別に、漁獲量の配分割当は県別ではなく、漁場別にすることを望みます

【数量管理以外の資源管理措置の内容】

- ・ 他県漁業者が島周辺漁場の資源管理ルールを守るためには、キンメダイ漁業の許可や承認など、公的規制が不可欠と考える

【ステークホルダー会合で特に説明すべき重要事項】

- ・ 資源管理が実施され、現状よりも少ない漁獲量が配分割当された場合、
漁業者は勿論、漁協や都漁連も経営悪化を余儀なくされることから、これらへの対策として、国等の施策が不可欠と考える
- ・ 漁獲量の配分割当の実施と後継者確保は、どのように両立できるのでしょうか？
- ・ 伊豆諸島は他県漁業者との入会漁場であるという、東京都特有の現状をご理解頂けるよう、お願いします